

# 西川やすお 後援会報

2021.6 VOL.9

討議資料

## 一般質問

令和3年6月8日(火)13時15分から60分間、栃木県議会本会議にて一般質問に立ちました。詳細は動画をご覧ください。

### ① デジタル社会の実現に向けて

- (1) デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進について
- (2) スーパーシティ構想について
- (3) MaaSの推進について

### ② 電力自給率の向上について

### ③ 今後の子ども政策について

### ④ 観光立県とちぎづくりについて

### ⑤ 防災・減災対策について

### ⑥ 今後の農業の振興について



動画はこちら



### 1 (1)「デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進について」

県は行政手続きのオンライン化などをはじめ、行政サービスの地域間格差解消などを進めています。知事からは、知事・市町長や県・市町職員までDX研修を進め、より良い社会の実現に向けて取り組むとの回答がありました。とちぎビジネスAIセンターも県内中小企業のDXを支援していくなど、本県のDXが進み、更に便利で誰にでも分かりやすいデジタル社会が進む事に期待しております。職員の意識変革、デジタル化による職場改革、行政の効率化が、結果として県民サービスの向上につながると期待しております。

(2)「スーパーシティ構想について」は、国家戦略特区など、大胆な規制改革と住民の理解により実現する未来都市です。移動、物流、医療、介護、教育、環境など、いくつかの課題に焦点をあて、県が、積極的に取り組む市町の支援を進めていくべきと考えます。

(3)「MaaSの推進について」公共交通機関を使って旅行する際、スマートフォンで経路検索し乗り換え案内やバスの運行状況などを確認できます。その経路は最短で最安のルートが導き出され、その料金を一括決済できるサービスがMaaSです。これから来年のいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会や、アフターコロナで観光客が来県する際に、より便利な交通手段を提供出来るよう県としても積極的に関わって欲しいと思います。



### 2 「電力自給率の向上について」

知事は令和12年度に電力自給率100%の実現を目指しています。現在の進捗状況は大規模発電所の稼働開始も貢献し、令和2年度には70%程度にまで向上しました。災害に強いとちぎづくりには、県内の電力自給率100%を前倒して実現するべきです。また、2050年カーボンニュートラルの実現には、クリーンエネルギーの割合を増やした上で自給率100%を目指すよう要望しました。

### 3 「今後の子ども政策について」

現在、厚生労働省、文部科学省、内閣府が担当分野ごとに子育て政策を行っています。縦割り行政となっており、各所管部署の都合でこども政策をバラバラに行ってきました。そこで、国は「子ども庁」の創設を目指し、省庁横断で縦割り行政の打破を目指しています。是非、「所管の部署で何ができるか」ではなく、「子どもに何が必要か」を考え、「子どもファースト」で対応するよう、そして、妊娠、出産から成人するまで、子どもに対する必要な支援や政策が切れ目なく行われるよう要望しました。

### 4 「観光立県とちぎづくりについて」

昨年から断続的に続く緊急事態宣言等により、県内観光地は厳しい状況が続いています。観光関連事業者への手厚い支援はもとより、新たな観光メニューや観光資源の更なる掘り起こしや磨き上げにより、観光誘客に万全の体制を築くべきと考えます。また、廃屋、廃ホテルの撤去は、国の支援も活かし、市町と県が積極的に関与して進めていくよう要望致しました。また、コロナ収束時の「県民一家族一旅行」の再実施についても大いに期待しております。

### 5 「防災・減災対策について」

県は、令和元年東日本台風の原型復旧工事は8割が完了し、残り2割についても応急対応を行っています。しかし、住民の皆さんからは不安の声が尽きないことから、事業の進捗状況については、「住民目線」で丁寧な説明が必要であります。また、堤防強化緊急対策プロジェクトは今後も集中的に行っていきます。また、災害発生情報や避難所へのルート案内など、スマートフォンでリアルタイムに防災情報発信を積極的に行うよう要望しました。

### 6 「今後の農業の振興について」

高齢化や担い手不足が急激に進んでいる中で、国は「農地集積プラン」の作成を市町に義務付ける予定です。地域によってはスマート農業も進んでおり、機械化に対応する新たな土地改良事業も必要です。また、地域に合った作物に特化し、稲作を進める地域、園芸を進める地域、畜産を進める地域などのゾーニングや戦略的作物の推進が必要であります。消費者に安く農産物を提供しても、農家に十分な収入が残らなければ産業として成り立ちません。地産地消やネット販売などで運搬コストを下げ、6次産業化も必要であります。



# ごあいさつ ～皆様への感謝と新たな決意～

皆様に県政へ送っていただいてから早くも3年目に入りました。この間、令和元年東日本台風による大規模災害、新型コロナウイルス感染症の拡大など、ほとんどの期間を災害対策と感染症対策に取り組んでまいりました。令和2年度には、県土整備委員会副委員長や自民党栃木県連の青年部長、政務調査会理事など、沢山の役職をいただき、政策立案や予算折衝の最前線で取り組んで来ました。皆様のおかげで多くの事を勉強させていただいた事に心から感謝しております。令和3年度は引き続き県土整備委員会に属し、栃木県森林審議会の委員も拝命し、県政発展の為に日々活動しております。

また、先日は、自民党の衆議院栃木県第二選挙区支部長の公募にもチャレンジし、私の政治に対する考え方や、生まれ育った地元への思いなども伝えさせていただきました。公募については大変残念な結果でありましたが、不撓不屈の精神を持って、何事にもチャレンジし、政治活動は今後も更に積極的に続けてまいります。「すべては地元のために」これが私の思いです。現場主義でいち早く駆けつけますので、皆様からの更なるご理解・ご協力をお願い致します。



実現

## 今後取り組んでいく主な課題

先ず、直近の課題は新型コロナウイルス対策です。県民の皆様の健康と命を守り、ワクチン接種と感染予防を更に進めて参ります。

栃木県経済の根幹である中小企業の皆さんを支援し、働く皆さんの雇用の確保にも取り組んでまいります。また、経済弱者の方々にも市町と連携して必要な貸付金や給付金の確保にも取り組んでまいります。

中期的な課題としては、防災・減災対策です。100年に一度と言われるような大規模な自然災害が毎年のようにどこかで発生しています。栃木県も令和元年東日本台風で被災しました。県所管の原型復旧工事は約8割が完了しておりますが、更なる改良復旧工事や堤防強化対策、河川の堆積土の除去等は引き続き積極的に行い、国の国土強靱化予算も使いながら整備を進めてまいります。

長期的課題は「持続可能な社会の実現」であります。特に環境面では、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、二酸化炭素の排出削減をあらゆる立場から力を合わせて取り組んでいかなければなりません。私たちの次の世代に、持続可能で明日に希望が持てる社会を引き継いでいけるよう、皆で協力し実現していきましょう。私も政治の立場から全力で取り組んで参ります。



西川やすおプロフィール

【誕生】昭和46年9月22日

さくら市(旧氏家町)に生まれる(49歳)

【家族】妻、一男一女の4人家族、柴犬

【趣味】魚釣り、ゴルフ

【学歴】日本大学法学部法律学科卒業

早稲田大学大学院商学研究科修了  
(MBA取得)

【職歴】大手建設会社勤務

国会議員秘書

学校法人東洋育英会

さくら総合専門学校 理事長兼学校長(現職)

栃木県議会議員(現職)

保護司(現職)

後援会事務所 お気軽にお寄りください!

ホームページ



<http://nishikawayasuo.com/>

Facebook



@nishikawayasuokouenkai

Instagram



@nishikawayasuo8

西川やすお  
後援会事務局 栃木県さくら市  
馬場296番地2  
TEL028-681-1001  
FAX028-682-7222

日々の活動内容はこちらからご覧ください。

討議資料